

実施日：4月～3月	
教科等：特別活動	
取組名：縦割り班でつながろう	
対 象：全校生	実施場所：各教室・体育館・運動場
ア ねらい 異学年の友だちと関わり合う中で、温かい人間関係づくりを通して、個人のよさを認め合う心情を育てる。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 - 異学年での交流のため、1～6年生の全校生で班編成をする。 - 縦割り班遊びでは、1～6年生がみんなで楽しめる内容を6年生が中心となって考えて実施する。 - 縦割り清掃では、高学年が掃除の仕方を低学年に優しく教えながら行う。 - 縦割り班ごとに、温かい言葉（ふわふわ言葉）を集める活動を行い、温かい言葉を集めた掲示物をつくることで、今まで以上に温かい人間関係づくりができるようにする。	
ウ 連携先：家庭	
エ 連携にむけての取組 温かい言葉がけについて、通信等で取組を保護者に伝え、家庭でも言葉づかいや友だちとの関わり方について意識を高められるように伝える。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 - 朝会等で全校生に対して、一人ひとりの個性を大切にすること、人権に関する内容の講話を、継続的にこない、お互いを大切にする人間関係づくりに結び付ける。 - 各学級での話合いや児童が主体となる代表委員会での話合いで、温かい言葉を集める活動を行い、全校生に温かい言葉がけを啓発する。	
カ 評価の方法 - 学校生活での様子 - 児童への人権アンケートの実施	
キ 成果 - 年間を通して異学年交流（縦割り班遊びや縦割り清掃など）をすることで、高学年が低学年にやさしく教えるなどの交流が増え、異学年同士の関係性が深まった。 - あったか言葉の取組によって、冷たい言葉（相手の心を傷つける言葉）が減り、よりよい人間関係づくりまた、「大丈夫？」という言葉に合わせて困っている人を助けるなどの行動の変化もみられる児童も増えてきた。 - 代表委員会においては、3年生以上の児童が自分たちで学校生活をよりよくするための目標を主体的に考えることができた。	
ク 課題 あったか言葉の取組によって、日常的には冷たい言葉は減ってきているものの、トラブルがあった時などには、自分の思いを上手に表現することができずに、暴言がでてしまうことがある。今後も異学年交流をさらに増やしていくことで、相手の気持ちを考えながら、自分の主張を上手に伝えられるように支援していくことが必要である。	